

学校名	福島市立北信中学校	校長	小針 伸一		
住所	福島県福島市鎌田字御仮家 20 番地	児童生徒数	850	学級数	28
TEL	024-553-5049	ホームページアドレス	www.fukushima.gr.fks.ed.jp/?page_id=492		

少人数教育の充実に向けた取組

1 少人数指導の計画等

本校では、生徒の実態把握をふまえ、「主体的に学ぶ姿勢の向上」「一人一人の確かな学力の定着」に重点をおき、少人数教育の充実を図った。主な実践内容として、次の2点があげられる。

- (1) 知識構成型ジグソー法を導入した指導方法の工夫
- (2) 理科の授業におけるT・Tによる指導方法の工夫



2 実践の概要

- (1) 知識構成型ジグソー法を導入した指導方法の工夫



少人数教育において、生徒同士が主体的に学び合う姿勢を高めるための効果的な手法として、協調学習の形態の1つである知識構成型ジグソー法*（エキスパート活動、ジグソー活動、クロストーク）を導入した。

このことにより、理科の「天気とその変化」の単元では、グループによる円滑な話し合いと、能動的な探究活動が行われ、生徒一人一人が「雲が発生するしくみ」を説明できるようになった。

※【協調学習：知識構成型ジグソー法】

- エキスパート活動： 同じ資料を読み合うグループを作り、その資料に書かれた内容や意味を吟味し合い、グループで理解を深める。
- ジグソー活動： 違う資料を読んだ人が一人ずついる新しいグループに組み替え、エキスパート活動で理解した内容を説明し合う。
- クロストーク： 答えが出たら、その根拠も合わせてクラスで発表し合い、他者の意見に耳を傾ける。

- (2) 理科の授業におけるT・Tによる指導方法の工夫



理科の授業において、時間割を編成する上で、各学年の教育計画の中でT・Tの活用を計画的に位置づけることによりスムーズな授業運営を行うことができています。このことは、生徒の学習内容の理解向上に結びついている。

また、実験・観察時の準備や器具操作のサポート、既習事項のまとめの時間での支援など、下位生徒へのきめ細かな支援を行うことができています。

3 実践の成果と課題

- 協調学習を通して、班で協力して主体的に課題に取り組む姿勢を養うことができた。また、資料から得られた内容を自分の考えとしてまとめ、話し合う活動を通して、生徒一人一人が生き生きと活動し、考えを深める授業を展開することができた。
- 理科の授業でのT・Tの導入により、生徒一人一人へのきめ細かな支援が可能となり、既習事項の確実な定着が図られた。また、生徒アンケートの結果からも「理科の授業が楽しい。」と答える生徒が多く見られるようになった。
- 1単位時間内において、互いの意見を聞き、よさを認めながら自分の考えを更に深めることができるよう、予想や考察、発表、まとめの場面での十分な時間確保の必要と、効果的にT・Tを実践していく継続的な支援や指導法の研究が大切である。